

合評会まとめ

2010年12月～2011年10月

担当者

多鹿 良太

～12月の合評会～ 2012

1 回生

- パニック映画としては、見ごたえがあった。しかし、WASPらしい描写が至る所にあった。そのようになってしまうのは、もはや王道だろうか？
- 感動というより、ひたすらハラハラする映画だった。
- とにかく、CG技術が凄かった。映像の迫力だけでも楽しめた。長時間の映画だが、それを感じさせない大作だ。

2 回生

- ゴードンまじ、かわいそう!!!それで、最後に家族の絆みたいなまとめ方は、納得いかん。どうなっとんねん!
- 監督は人を殺しすぎ。ストーリーは、無きに等しいが、CGは凄い。
- ストーリーは、よく分からないが、とにかく映像は凄かった。
- 地球滅亡の時、誰とどう最後をむかえるのか?サトナムの友情が、感動した。

まとめ by 合評会担当

まず、皆さんの意見にあるのは、やはりとにかく映像美が凄かったという意見。確かに凄かった。ローランド・エメリッヒ監督は、大ヒットした「インデペンデンスディ」から総じて映像に掛ける情熱が尋常ではない。もう、あれだけのCGを駆使した映像美を見ただけで見に来た甲斐はあるだろう。映画館でのあの迫力はまさに圧巻である。

しかし、これもほとんどの人が指摘しているが、あの映像に反し、ストーリーの方は、突っ込みどころが多かったようだ。ここで、その指摘をいくつか挙げたい。まず、多くの人々を無駄に殺しすぎという指摘。確かに、60億以上の人々が亡くなっていて、ラストで「さあ、これから新しい未来に向かっていこう。」というような終わり方はさすがにご都合主義といわざるを得ない。次に、終始、家族愛を描いていたが、その描写が希薄であるという指摘。これは、元々がパニック映画なので、取ってつけた感じは当たり前である。しかし、本当に残念なのが、ゴードンが報われなかったことだろう。

なにはともあれ、ジャンルがパニック映画なので、突っ込む要素はてんこ盛りなのだが、あの映像を見られただけでも、価値があった映画のように思える。

～4月の合評会～ 『シャッター・アイランド』

1 回生

- 最後の展開は見抜けなかった。ストーリーを知った上で、もう1度鑑賞したい。
- 伏線やラストもじっくり考えなければ少し理解が難しかった。是非もう1度鑑賞して、伏線をいっぱい見つけ出したい。
- 話の展開が若干読めてしまったので、「そのまんまかいつ」と思ってしまった。しかし、ストーリー展開は上手にまとめられているので良かった。

2 回生

- 冒頭に期待を大きくしすぎたせいか、ラストにあまり驚きがなかった。しかし、ディカプリオの演技は素晴らしかった。
- 謎を解こうというつもりで見ていたわけではないが、宣伝にだまされた感じで少しがっかりした。自分の記憶は信用ならない。

3 回生

- 精神病的な映画を観ると、オチをどうしても想定してしまうので、「やっぱりか」と思ってしまった。でも、考えながら観る映画は好きなので、個人的には好きな方の映画である。
- 冒頭で、映画の中でヒントを探せというアナウンスがあったので全てのシーンを凄く真剣に鑑賞した。なので、非常に疲れた。でも、2時間半は別に長くなかった。

まとめ by 合評会担当

この映画を観て別れるのが、ラストのオチが読めたかどうかである。意見を聞く限りどうやら半々ぐらいである。こういったラストにどんでん返しがある、あるいは、主人公が実は・・・などの展開がある映画は少なくない。なので、こういう展開の映画を観たことがある人は少々興奮めしたようである。しかし、初めての人にとってはまさに衝撃であったであろう。

こういったジャンル（ミステリー）の映画にはたいてい多くの伏線が存在する。その伏線は、1回鑑賞しただけではまず多くは発見できない。なので、2回目からの鑑賞が、こういった映画の本当の魅力を感じ取れるのかもしれない。また、あらゆる側面からあらゆる考え方が出来、人々によって捉え方が非常に変わってくるのもミステリー映画の魅力ではないだろうか。

～5月の合評会～ 『9－ナイン－』

1 回生

◦アニメに偏見があったが、普通の活劇映画という風で、安心した。それ以外は普通な感じ。ただ、人間のCGの粘土細工っぽさはどうかと思う。

◦主人公の行動にあまり共感できなかった。何が言いたい映画なのかよく分からなかった。

◦途中で飽きたりせず、ずっと楽しめた。表情の表現が思ったより細かかった。

2 回生

◦迫力があって、所々ビビった。機械獣が、なんかきもかった。人形たちがアイデアを出し合って、仲間を救出していくところが楽しかった。

◦全体的に暗いイメージ。キャラが濃くて、会話や戦い方が面白かった。結局、仲間を救えたと言えるのだろうか？

3 回生

◦CGはかなり綺麗で、かなり驚いたが、内容はオーソドックスであった。内容にもうひとひねり欲しかった。

◦何が言いたいのか伝わりにくかった。

まとめ by 合評会担当

今期の合評会が始まって以来、初めてのアニメーション映画。フルCGであったが、ほとんどの人が言及している通り、かなり細部にまでこだわっていたのではないだろうか？また、人形と機械獣との戦闘シーンも、かなり迫力があり、良い意味で驚いた人は多かったようだ。さすが、ティム・バートンがほれ込んだ作品なだけはある。

しかし、一方で、この映画自体、何が言いたいのかいまいちよく分からなかった人も多いようだ。アクションや、映像は凄いが、内容自体よく分からなかったというパターンの映画は、アメリカ映画において顕著であると言えよう。

この何が言いたいのかを深く追求していくと・・・前半部分は、自己のアイデンティティの探求。後半部分は、人形VS機械獣、つまり、人間の心を持つ有機的なものと、心を持たない無機質なものととの戦いであったように思える。全体を通して、人間らしさとは何か？人間とは、どういう生物なのか？といった疑問の答えを、人形に投影させていたのではないだろうか。

～6月の合評会～ 『告白』

1 回生

◦先の読めない展開で楽しめた。結局、人の心は「告白」されるまで分からない。他人の心を知ることはできない。

◦ストーリー、役者、映像、音楽、全てがやばかった。中島監督と松たか子には脱帽。

◦思い内容ではあるが、おもしろかった。1人1人の告白で事実が分かっていくのも面白かった。

2 回生

◦それぞれの視点で「告白」がなされ、各々がその時抱いていた気持ちが明らかになっていくところが非常に良かった。

◦映像の技術やサウンドが良かったと思う。ダイナミックな表現でおもしろかった。

3 回生

◦原作と比較すると、映画は、原作とほぼ忠実で、上手くスリムになっていたと思う。

◦演出が非常に好ましかった。色紙のメッセージとか、スロー再生とか……。ストーリーもさることながら、映像演出でさらにパワーアップしている気がする。

まとめ by 合評会担当

全体的に、会員の評価が高かったようだ。「内容は暗くて、登場人物もぶっ飛んでいるが……。面白かった。」といったような意見が多かった。あと、映像表現についても言及している会員が多く、良くも悪くも中島哲也ワールドにはまったということになるであろう。

会員の意見をまとめると上記のようになるのだが、個人的に、確かに暗い映画ではあった。扱っている内容が内容だけに、明るくしろと言われても無理なような気がする。そして、何より、「告白」という題名に裏付けされた人間の心の闇が、この映画をより、重いものになっている。

この映画に登場する人物は、よく見ると、誰1人として他の人と、心から気持ちを通い合わせている人物はいない。それは、自分自身が考えているホンネと、他人から見たその人が抱いているであろう気持ちが、全くかみ合っていないからに起因する。つまり、「告白」をしない限りは、相手の気持ちは、理解できないということ。人間関係の希薄化を表現しているのか？どちらにせよ、この映画は、現代の日本を反映しているのかもしれない。

～10月の合評会～ 『一三人の刺客』

1 回生

◦ 斬るシーンは、グロいというよりも鮮やかだった。ストーリーは単純だったので分かりやすかった。個人的に、首を蹴るシーンが苦手だった。

◦ ストーリーも飽きさせない内容だったし、案外良かった。ラスト50分くらい斬るシーンが続くのは、ちょっと長すぎでは・・・？

◦ 弓矢が残っているのに、使い切らないのは残念。使い切ってから刀を抜く方が「命をかけてる」感が出たのではないかと思った。

2 回生

◦ 最後の方は、アクションシーンが多く、目が疲れました。

◦ 死闘を美化せず、醜さを描いているのが良かった。何と言っても全体を通しての虚無感がとても印象的だった。エンターテインメント性は、素晴らしい。

3 回生

◦ アクションがやりたいだけではないかと思った。

◦ ちょっとグロかったが、笑えるところもあり、結構楽しめる映画だった。

まとめ by 合評会担当

グロい、アクション凄い、そのような意見ばかりであった。確かに、これら意外印象が残らないような映画であった。良く言えば、エンターテインメント性に優れている。悪く言えば、目が疲れる。と言ったところだろうか？

さて、オリジナル版を観たが、同じ映画であるにも関わらず、上記の映画のような印象はほとんど残っていない。そこには、リアルな殺陣のシーンと、リアルな武士の姿が残っている。というのも、映画は江戸末期の設定であり、ほとんどの武士は戦を体験していない。なので、オリジナル版では、非常にぎこちない武士の戦が観られるのだ。リメイク版は、その逆と言えるだろう。また、オリジナル版は、武士道を体現しているのに対し、リメイク版は、武士の虚無感を体現している。

以上のように、同じ映画なのにこれほどまでに描いている世界観が違うのだ。そこには、昔と現在の需要の違いが存在するのだろうか？つまり、その時代時代のニーズに合わせて制作しているのかもしれない。このように考えながら映画を観ると、どんどん面白くなる。